

11月22日（日）国際会議室

日本台湾共同シンポジウム 1

15:00–18:15 日本台湾共同シンポジウム 1

「東アジアでの哺乳類保全の現状と課題—地域との合意形成と協働—」

担当：山崎晃司

はじめに「東アジアでの哺乳類管理の課題」

山崎晃司（茨城県自然博物館）

「韓国でのツキノワグマの再導入プロジェクトにおける地元住民との合意形成」

Dong Hyuk, Jeong & Bae Keun, Lee（韓国国立公園管理公団種保全センター）

「野生動物管理のキー：台湾での先住民族」

Wang, Ying（国立台湾師範大学）

「兵庫県における野生動物保護管理と地域との連携」

横山真弓（兵庫県立大学）

「ケニアでの野生生物保全における保護区周辺住民との協働」

今榮博司（北海道大学大学院）

11月23日（月）国際会議室

総会／日本哺乳類学会賞受賞記念講演／日本台湾共同シンポジウム 2

11:00–12:30 総会

13:30–14:15 日本哺乳類学会賞受賞記念講演

森脇和郎（理化学研究所 筑波研究所 バイオリソースセンター）

14:30–17:45 日本台湾共同シンポジウム 2

「東アジアにおける哺乳類の動物地理学—島嶼動物相の理解」

担当：本川雅治

はじめに「東アジアの島嶼哺乳類相」

本川雅治（京都大学・総合博物館）

「台湾における小型哺乳類の動物地理学」

于 宏燦（台湾・国立台湾大学・動物学研究所及生命科学系）

「ムササビ類の系統地理—アジアの森林における樹上性小型哺乳類の進化史」

押田龍夫（帯広畜産大学野生動物管理学研究室）

「台湾の更新世哺乳類化石」

張 鈞翔（台湾・国立自然科学博物館・地質学組）

「分子系統地理から見た日本と台湾の食肉類」

増田隆一（北海道大学大学院理学研究院）

18:30-20:30 日本台湾共同懇親会

自由集会

- F22-1 増補食虫類の自然史 9. 台湾産食虫類の分類学
川田伸一郎(国立科学博物館)・安田雅俊(森林総研・九州・動物)
11月22日(日) 10:30-12:30 C-01 会場
- F22-2 生物多様性条約と都市における哺乳類保全
長谷川明子(名古屋大学・院・生命農学/麻布大学)・森部絢嗣(名古屋大学・院・生命農学)
11月22日(日) 10:30-12:30 C-02 会場
- F22-3 ニホンザルの個体群管理—何から始めるべきか
渡邊邦夫・江成広斗(京大霊長研)・常田邦彦(自然研)
11月22日(日) 12:45-14:45 C-01 会場
- F22-4 台湾と日本における鯨類研究の今
山田 格(国立科学博物館)・周 蓮香(國立臺灣大學)
11月22日(日) 12:45-14:45 C-02 会場
- F23-1 哺乳類の食べ物(2) 2種の食性を2カ所で比較する
高槻成紀・立脇隆文(麻布大学・野生動物)
11月23日(月) 9:00-11:00 C-01 会場
- F23-2 サルを追い払え!! ~ニホンザルの追い払い、追い上げの最新事情~
白井 啓・岡野美佐夫・清野紘典・佐伯真美(野生動物保護管理事務所)・
宇野壮春(宮城野生動物保護管理センター)・吉田 洋(山梨県環境科学研究所)
11月23日(月) 9:00-11:00 C-02 会場
- F24-1 哺乳類における食性と形態進化
浅原正和(京大・院・理)
11月24日(火) 9:00-11:00 C-01 会場
- F24-2 クマ類の個体群モニタリング手法の確立に向けて
間野 勉(北海道環境科学研究所)・佐藤喜和(日本大学・生物資源科学部)
11月24日(火) 12:30-14:30 国際会議室
- F24-3 食肉目調査事例集の現在と未来
金子弥生(東京農工大・野生動物)・福江佑子(ワイルドライフコミュニティ研究所)
11月24日(火) 12:30-14:30 A-03 会場
- F24-4 かたちの学校 14
遠藤秀紀(東京大学・総合研究博物館)
11月24日(火) 12:30-14:30 C-01 会場

- 11:00 22国-1 加速度データロガーをもちいたヌートリアの活動リズム解析
渡辺伸一
福山大・生命工
- 11:15 22国-2 ヒマワリ種子を用いた食痕によるネズミ類検出法
○石若礼子・増田泰久
九大農
- 11:30 22国-3 強い狩猟圧のもとシカはどのような個体群動態をたどったかー岩手県五葉山での17年間の個体群動態と人口学的パラメーター
○三浦慎悟¹・堀野眞一²・大井 徹²・高槻成紀³・岡 輝樹²・山内貴義⁴
早稲田大人間科学¹・森林総研²・麻布大応用動物³・岩手県環境センター⁴
- 11:45 22国-4 状態空間モデルを用いた複数密度指標からのニホンジカ個体群の時空間的動態把握
○岸本康誉¹・藤木大介^{1,2}・坂田宏志^{1,2}
兵庫県森林動物研究セ¹・兵庫県立大²
- 13:30 22国-6 ヤクシマザルの睡眠を阻害するヤクシカー夜間にサル糞を食べにくるシカー
○西川真理・持田浩治
京大 院 理
- 13:45 22国-7 西興部村猟区におけるエゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) 管理の現状と課題
○伊吾田宏正¹・松浦友紀子²・鈴木正嗣³
酪大¹・北大²・岐阜大³
- 14:00 22国-8 対照的な二つのエゾシカ個体群の崩壊後の挙動：個体数の制限と調節
○梶 光一¹・山本悠子²・高橋裕史³・宮木雅美⁴
東京農工大学^{1,2}・森林総合研究所関西支所³・酪農学園大学⁴
- 14:15 22国-9 屋久島・口之永良部島における市民調査をベースとしたニホンジカ管理計画の可能性
○立澤史郎¹・川村貴志²・手塚賢至³・荒田洋一³・川崎勝也⁴
北海道大学¹・屋久島生物部²・屋久島まるごと保全協会³・屋久島町農林水産課⁴

- 11:00 22A-1 ミトコンドリア DNA と MHC 遺伝子の解析からみえるニホンツキノワグマの現状
○安河内彦輝¹・西田 伸¹・黒崎敏文²・米田政明²・小池裕子¹
九大¹・自然研²
- 11:15 22A-2 アリューシャン列島アダック島考古遺跡出土のラッコ *Enhydra lutris* に関する炭素・窒素・酸素安定同位体分析について
Ame Garong¹・高島千鶴²・西田 伸¹・狩野彰宏¹・○小池裕子¹
九州大学¹・佐賀大学²
- 11:30 22A-3 見かけ上 Y 染色体が存在しないジャワマンゲースにおける Y 染色体領域の同定
澤谷聞人¹・中田勝士²・山田文雄³・阿部慎太郎²・西田千鶴子⁴・松田洋一⁵・
○黒岩麻里^{1,4}
北大院生命科学院¹・環境省²・森林総研³・北大院理学研究院⁴・名大院生命農学⁵
- 11:45 22A-4 ニホンテン (*Martes melampus*) の保全遺伝学的研究
○佐藤 淳¹・安田俊平²・細田徹治³
福山大 生物工¹・北大 医 微生物²・和歌山県立耐久高校³
- 12:00 22A-5 東南アジア最古のコロブス類化石
○高井正成¹・タウンタイ²・ジンマウンマウンテイン¹・江木直子¹・西村 剛¹
京都大霊長研¹・シュエボー大 (ミャンマー)²
- 13:30 22A-6 兎形目における脊椎骨数の変異
○平田逸俊¹・川田伸一郎²・保尊 脩³・森 貴久¹
帝京科学大¹・国立科学博物館動物研究部²・名大院生命農³
- 13:45 22A-7 逆さ四足歩行動物のぶら下がり時における肘関節の屈曲姿勢の維持と骨格形態との関係
○藤原慎一・遠藤秀紀
東大博物館
- 14:00 22A-8 アジアにおけるイノシシと原始的在来ブタの幼獣の吸乳位置
○黒澤弥悦¹・田中一榮²
奥州市牛の博物館¹・東京農業大学²
- 14:15 22A-9 クマネズミによる樹皮剥離と小枝切断に見られる共通原因
○矢部辰男¹・橋本琢磨²・G. A. リベラ³
熱帯野鼠対¹・自然研²・フィリップ木材³

- 9:00 23国 -1 シカの利用強度の違いが開放地の草本植生に与える影響
○高柳 敦¹・合田 禄²
京大院農¹・朝日新聞社²
- 9:15 23国 -2 コテングコウモリ *Murina ussuriensis* におけるアカメガシワトラップのねぐら利用と繁殖生態
○船越公威¹・長岡研太¹・竹山光平¹・犬童まどか²
鹿児島国際大・国際文化¹・鹿児島大・理²
- 9:30 23国 -3 長野県乗鞍高原におけるクビワコウモリ *Eptesicus japonensis* 個体群で試みた個体群パラメータの推定
山本輝正
岐阜県立土岐紅陵高等学校
- 9:45 23国 -4 イエコウモリのナイトルーストによる糞尿被害の防除事例
西 信介
- 10:00 23国 -5 巣箱を用いたヤマネの生活史の研究
○湊 秋作^{1,2}・岩渕真奈美^{1,2}・饗場葉留果^{1,2}・湊 ちせ²
キープやまねミュージアム¹・ニホンヤマネ保護研究グループ²
- 10:15 23国 -6 都市近郊におけるホンドテンの食性に関する研究
榊田杏子
龍大院

- 9:00 23A-1 ヤクシカの順応的管理モデル
○松田裕之¹・太田碧海²
横浜国大・環境情報¹・笛吹市²
- 9:15 23A-2 富山県における秋季のツキノワグマの食性と行動
○有本 勲¹・後藤優介²・永井知佳³・古林賢恒⁴
東京農工大連農¹・立山カルデラ砂防博物館²・東京農工大学院³・ライチョウ保護研究会⁴
- 9:30 23A-3 独立した推定結果の援用による捕獲に基づくヒグマ個体群動態推定精度の向上
○間野 勉¹・松田裕之²・棗 庄輔¹・釣賀一二三¹
北海道環境科学研究センター¹・横浜国立大学大学院²
- 9:45 23A-4 ハクビシンにおける侵入可能な入口の大きさおよび形状の検討—視覚的要因の影響—
○加瀬ちひろ¹・江口祐輔²・古谷益朗³・植竹勝治¹・田中智夫¹
麻布大院獣医¹・近中四農研²・埼玉県農林総研セ³
- 10:00 23A-5 ニホンザルの体毛の炭素・窒素安定同位体比の特徴について
○大井 徹¹・清野紘典²・濱崎伸一郎²
森林総研¹・WMO²
- 10:15 23A-6 スラウェシマカク交雑個体群の個体群動態の特徴
渡邊邦夫
京大霊長研

- 10:00 24国-1 ニホンジカ *Cervus nippon* の航空機調査における発見率
○宇野裕之¹・車田利夫¹・稲富佳洋¹・玉田克巳¹・梶 光一²
北海道環境研¹・東京農工大²
- 10:15 24国-2 景観構造を考慮したシカによる水稻被害発生機構の解明
○高田まゆら¹・鈴木 牧²・落合啓二³・浅田正彦³・宮下 直²
帯畜大¹・東大院農²・千葉県博³
- 10:30 24国-3 シカ捕獲用ドロップネットの開発
室山泰之^{1,2}・田口 彰²・中村幸子^{1,2}・岸本康誉²・永本正義³・松本哲也⁴・北川洋一⁴・
○森光由樹^{1,2}
兵庫県立大学自然・環境科学研究所¹・兵庫県森林動物研究センター²・機械金属工業技術支援センター³・兵庫県立工業技術センター⁴
- 10:45 24国-4 尖閣諸島魚釣島の野生化ヤギ問題—近年における現地の状況
○横畑泰志¹・横田昌嗣²・金子正美³・星野仏方³・小野貴司⁴・南澤 舞⁴
富山大院・理工¹・琉大・理・海洋自然科学²・酪農学園大・環境システム³・EnVision⁴
- 11:00 24国-5 Designs to Remove the Effect from Body Heating on Temperature Sensor Built in the GPS Housing of GPS3300 Radio-Collar
○Zhaowen Jiang¹, Seiki Takatsuki², Masahiko Kitahara³, Mikio Sugita³
WMO¹, Azabu Univ.², Yamanashi Inst. Envir. Sci.³
- 11:15 24国-6 絶滅危惧種オキナワトゲネズミの生息地減少と捕獲個体
○山田文雄¹・河内紀浩²・中田勝士³・三宅雄士³・福地壮太³・七里浩志³・阿部慎太郎³・
小高信彦¹・高嶋敦史⁴・黒岩麻里⁵・村田知慧⁵
森林総研¹・島嶼生物研²・環境省那覇³・琉大⁴・北大⁵
- 11:30 24国-7 複数遺伝子座を用いたニホンノウサギ4亜種の遺伝的背景の解析
○布目三夫¹・鳥居春己²・松木吏弓³・鈴木 仁¹
北大院 環境科学¹・奈良教育大学自然環境教育センター²・電中研 生物環境領域³

- 10:00 24A-1 ニホンイタチ *Mustela itatsi* の個体識別法
 ○関口 猛¹・佐々木浩²・栗原淑子¹・関口郁子¹・渡辺茂樹³・森山大吾⁴・黒瀬奈緒子⁵・松木吏弓⁶・佐伯 緑⁷・山崎晃司⁸
 九州大学医院¹・筑紫女学園大学短大部²・成安造形大学³・国際航業⁴・神奈川大学理⁵・電力中央研究所⁶・中央農業総合研究センター⁷・茨城県自然博物館⁸
- 10:15 24A-2 福岡県脊振山地五ヶ山におけるニホンイタチ *Mustela itatsi* の生息状況 (II)
 ○佐々木浩¹・関口 猛²・渡辺茂樹³・栗原淑子²・関口郁子²・森山大吾⁴・黒瀬奈緒子⁵・松木吏弓⁶・佐伯 緑⁷・山崎晃司⁸
 筑紫女学園大短大部¹・九州大医院²・成安造形大³・国際航業⁴・神奈川大理⁵・電力中央研⁶・中央農研センター⁷・茨城県自然博⁸
- 10:30 24A-3 柵による外来哺乳類マンガースの行動抑止効果について
 ○飯島康夫¹・河内紀浩²・山下勝弘²・小坂奈月²・小林海央²・森田 覚²
 八千代エンジニアリング(株)九州支店¹・八千代エンジニアリング(株)沖縄事務所²
- 10:45 24A-4 シカの高密度化がタヌキの餌資源に及ぼす影響
 ○關 義和¹・小金澤正昭²
 東京農工大・院・連合農学¹・宇都宮大・演習林²
- 11:00 24A-5 沖縄本島北部海域に來遊するコビレゴンドウの音響行動
 ○中原史生¹・東 直人²・岡部晴菜³・江本博俊⁴・内田詮三⁵
 常磐大学¹・(財)海洋博覧会記念公園管理財団²・(財)海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター³・システムインテック⁴・沖縄美ら海水族館⁵
- 11:15 24A-6 Historical distribution changes of the 26 mammal species in Sumatra and its implication for conservation
 ○Rizaldi^{1,2}, S. N. Kamilah², A. Bakar², M. Mitani³, K. Watanabe¹
 Primate Res., Inst., Kyoto Univ.¹, Dep. Biology, Fac. Sciences, Andalas Univ.², Hyogo Pref. Univ.³

- * P-1 鯨類の Anal Tonsil（肛門扁桃）に関する予備研究
○田島木綿子・真柄真実・山田 格
国立科博
- * P-2 ハンドウイルカとミナミハンドウイルカの脊柱における骨学的比較
○栗原 望・山田 格
国立科学・動物
- * P-3 ニシインドマナティーの2亜種間における頭蓋骨の癒合に関する予備的調査
○保尊 脩¹・川田伸一郎²・山田 格²・織田銃一¹
名大院生命農¹・国立科学博物館動物研究部²
- * P-4 剥製標本を用いたオリックス亜科（Hippotraginae）における毛の微細構造
○真柄真実・川田伸一郎・山田 格
国立科学博物館動物研究部
- * P-5 静岡県産ニホンカモシカの頭骨の幾何学的形態解析
福永裕史
京大・院理・動物
- * P-6 Morphometrical observation of the skull of Korean water deer, *Hydropotes inermis argyropus*
○Yungkun Kim¹, Ki-jeong Na², Young-jun Kim³, Hang Lee³, Junpei Kimura¹
Laboratory of Veterinary Anatomy, College of Veterinary Medicine, Seoul National Univ., Seoul, Korea¹,
College of Veterinary Medicine, Chungbuk National Univ., Cheongju, Korea², Conservation Genome
Resource Bank for Korean Wildlife, College of Veterinary Medicine, Seoul National Univ., Seoul, Korea³
- * P-7 パタスモンキーの歯の萌出順と萌出時期
奥田ゆう
岡山理大院 総情
- P-8 Cheetah (*Acinonyx jubatus*) の高速走行メカニズムの解明
○和田直己¹・後藤 慈¹・池辺祐介²・佐藤 梓²・宇根 智³・川田 睦³
山口大学大学院連合獣医学研究科¹・秋吉台自然動物公園²・ネオベッツ VR センター³
- P-9 イリオモテヤマネコとツシマヤマネコの採餌生態と頭骨形態比較
○中西 希・伊澤雅子
琉大・理
- * P-10 水晶体を用いたジャワマングースの齢査定方法の確立
○川野智美^{1,3}・中田勝士²・平野昂規¹・小倉 剛¹・石橋 治¹
琉球大学¹・環境省²・熊本県立熊本農業高等学校³

- * P-11 アロメトリー解析によるニホンイタチ頭骨の地域間比較
○鈴木 聡¹・本川雅治²
京大・院理・動物¹・京大・総博²
- * P-12 愛知県におけるヌートリアの齢査定法およびその個体群の齢構成
○曾根啓子¹・子安和弘^{2,3}・小林秀司⁴・織田銃一¹
名大・院・生命農学¹・愛院大・歯・解剖²・愛院大・歯・歯科資料展示室³・岡山理科大・理⁴
- * P-13 ヒメネズミの外部形態および頭骨形態における地理的変異
○新宅勇太¹・本川雅治²
京大・院理・動物¹・京大・総博²
- * P-14 ベトナム産クリハラリスとホオアカカオナガリスにおける咀嚼力と視野角の比較：同所的分布とニッチ分化を可能にする形態学的基盤
○小薮大輔¹・林田明子²・遠藤秀紀²
東大院理/学振¹・東大博物館²
- P-15 セスジネズミ属 *Apodemus* 2種における大後頭孔角度と視野への影響
○佐藤和彦・小萱康德・久保金弥・江尻貞一
朝日大・歯・口腔解剖
- P-16 台湾産 *Apodemus semotus* と中国大陸産 *A. draco* の頭骨・外部形態計測の比較
金子之史
香川県坂出市高屋町 502-4
- P-17 コウベモグラに残されたロコモーションのストラテジー（運動学、解剖学的研究）
○後藤 慈・和田直己
山口大学大学院連合獣医学研究科
- * P-18 ヒミズにおける尾の太さの変異と内部構造との関係
○白井浩一郎・岩佐真宏
日大院・生物資源科学
- P-19 オオアリクイの咀嚼機構に関する肉眼解剖学および三次元 CT 画像解析学的検討
○遠藤秀紀¹・川田伸一郎²・小宮輝之³・鯉江 洋⁴
東大総合研究博物館¹・国立科学博物館²・恩賜上野動物園³・日大生物資源獣医内科⁴
- P-20 山形県と近隣山系におけるツキノワグマの集団構造の解明
○鶴野レイナ¹・大西尚樹²・東 英生³・玉手英利⁴
慶大・先端生命¹・森林総研²・山形の野生動物を考える会³・山形大・理・生物⁴
- P-21 下北半島に生息するツキノワグマの集団遺伝学的解析
○山本俊昭¹・奥村友梨¹・田中裕久¹・高津戸望¹・岡 輝樹²
日本獣医生命科学大学¹・森林総合研究所²

- * P-22 ニホンツキノワグマにおける冬眠中の行動および体温変化の解析
吉本拓郎・○下鶴倫人・坪田敏男
北大獣医生態
- * P-23 アリューシャン列島・Adak 島考古遺跡より出土したラッコ試料の ancient DNA 解析
○西田 伸¹・Dixie West²・Susan Crockford³・小池裕子¹
九大・比文¹・University of Kansas²・Pacific Identifications Inc.³
- * P-24 ミトコンドリア DNA から見た台湾産イタチ類相の形成史
○細田徹治¹・佐藤 淳²・林 良恭³・陳 彦君⁴・原田正史⁵・岩佐真宏⁶・鈴木 仁⁷
和歌山県立耐久高校¹・福山大 生物工学²・台湾東海大 生命科学系³・台湾国立自然科学博物館⁴・
大阪市大 医⁵・日大 生物資源⁶・北海道大 地球環境⁷
- * P-25 京都府と福井県のアライグマの母系解析
○及川雄二¹・高田雄三²・丹羽和紀¹
東邦大¹・防衛医大²
- * P-26 ヘア・トラップによって回収されるツキノワグマ (*Ursus thibetanus*) 体毛タイプの季節変化
と遺伝子解析成功率の検討
○近藤麻実¹・山内貴義²・辻本恒徳³・玉手英利⁴・米田政明⁵・浅野 玄^{1,6}・鈴木正嗣^{1,6}
岐阜大学大学院連合獣医学研究科¹・岩手県環境保健研究センター²・盛岡市動物公園³・
山形大学理学部⁴・財団法人自然環境研究センター⁵・岐阜大学応用生物科学部⁶
- * P-27 マイクロサテライト解析によるユーラシアアナグマの集団構造
○田島沙羅¹・金子弥生²・Alexei Abramov³・増田隆一¹
北大 院理¹・東京農工大 野生動物²・ロシア科学アカデミー動物学研究所³
- * P-28 氷河期の遺存種イイズナの系統地理と進化史
○黒瀬奈緒子¹・林 雨徳²
神奈川大学理学部生物科学科¹・国立台湾大學生態學與演化生物學研究所²
- * P-29 ジャワマンダースのマイクロサテライトマーカーを用いた多型解析方法の確立と遺伝的構造の
把握
○玉那覇彰子¹・岩崎公典²・小倉 剛³・石橋 治³・屋 宏典²
山口大¹・琉球大 熱帯生物圏研究センター²・琉球大 農 亜熱帯動物学³
- P-30 東北地方に生息するニホンイノシシ集団へのブタ遺伝子浸透
○貝津光依¹・玉手英利²
山形大 院 理工学¹・山形大 理²
- * P-31 ミトコンドリアゲノムに基づくアジアゾウの系統進化
○米澤隆弘¹・Sri Sulandari²・M. S. A. Zein²・長谷川政美¹
復旦大学生命科学学院¹・Zoology, Research Center for Biology, LIPI²

- P-32 伊豆大島に生息するタイワンザルの分布変遷と遺伝学的集団構造
○佐伯真美¹・川本 芳²・川本咲江²・白井 啓¹・川村 輝¹
(株)野生動物保護管理事務所¹・京都大学霊長類研究所²
- P-33 血液試料からの直接PCRによるY染色体STR多型検索法の開発とニホンザル—外来種交雑モニタリングへの応用
○川本 芳・齊藤 梓・川本咲江
京大霊長研
- P-34 マントヒヒにおける、Y染色体ハプロタイプ組成の群間の差について
○山根明弘¹・庄武孝義²・森 明雄²・杉浦秀樹³・Ahmed Boug⁴・岩本俊孝⁵
北九州市博¹・京大霊長研²・京大野生研センター³・NWRC, Saudi Arabia⁴・宮崎大⁵
- * P-35 外来タイワンリス類 *Callosciurus* の種同定に関する研究：フィンレイソンリス *C. finlaysonii* は静岡県に生息するのか？
○藏本卓哉¹・池田 瞳¹・鳥居春巳²・押田龍夫¹
帯畜大野生動物管理¹・奈良教育大²
- * P-36 マウス精子凝集塊と受精との関連性に関する検討
○細川由起¹・澤口 朗²・篠原明男¹・越本知大¹
宮崎大学フロンティア科学実験総合センター¹・宮崎大学医学部解剖学講座超微形態科学分野²
- * P-37 サイロキシン投与が冬眠シマリスと非冬眠シマリスのHP周期性に与える影響
○滋野雅大¹・丸山春香²・石庭寛子¹・近藤宣昭³・関島恒夫¹
新潟大（院自然研）¹・新潟大（農）²・玉川大学³
- * P-38 オキナワトゲネズミのXおよびY染色体が大型化したメカニズムの解明
○村田知慧¹・山田文雄²・河内紀浩³・中田勝士⁴・阿部慎太郎⁴・松田洋一⁵・黒岩麻里^{1,6}
北大院生命科学院¹・森林総研²・島嶼生物研³・環境省⁴・名大院生命農学⁵・北大院理学研究院⁶
- * P-39 アカネズミの集団史：過去の分散、染色体変異、島嶼間での遺伝子流動
○友澤森彦¹・鈴木 仁²・松原和純³・松田洋一⁴
北大環境科学¹・北大地球環境²・名市大システム自然科³・名大院生命農学⁴
- * P-40 奥羽山系北部のブナ天然林におけるアカネズミとヒメネズミの遺伝子流動の評価
○高野雄太・井上みずき・星崎和彦
秋田県立大 生物資源
- * P-41 アカネズミの自発日内休眠像
○江藤 毅¹・岡 綾乃²・越本知大³・篠原明男³・高橋俊浩²・森田哲夫²
宮崎大 院 農¹・宮崎大 農²・宮崎大 フロンティア科学実験総合センター³

- * P-42 Origin of unknown specimens from pet shops in South Korea and population structure of Siberian chipmunks
○ Mu-Yeong Lee¹, Yun-Sun Lee¹, Andrey A. Lissovsky², Ya-Ping Zhang^{3,4}, Li Yu^{3,4}, Inna Voloshina⁵, Mi-Sook Min¹, Hang Lee¹
Conservation Genome Resource Bank for Korean Wildlife, BK21 program for Veterinary Science and College of Veterinary Medicine, Seoul National University¹, Zoological Museum of Moscow State University², Laboratory for Conservation and Utilization of Bio-resource, Yunnan University³, State Key Laboratory of Genetic Resource and Evolution, Kunming Institute of Zoology⁴, Lazovsky State Nature Reserve⁵
- * P-43 中国雲南省哀牢山産 *Blarinella griselda* の核型分析
○ 森部絢嗣¹・蔣学龍²・林良恭³・張育誠³・小林秀司⁴・織田銑一¹
名古屋大・院・生命農学¹・中国科学院昆明動物研究所²・台湾東海大・生命科学系³・岡山理科大・理⁴
- * P-44 コウベモグラおよびヒミズのオプシン遺伝子の解析
○ 篠原明男・越本知大
宮崎大学フロンティア科学実験総合センター
- * P-45 スクンス上顎第三切歯欠如の遺伝性と発生学的特徴
○ 城ヶ原貴通^{1,2}・子安和弘³・花村肇³・織田銑一¹
名古屋大・院・生命農学¹・現：岡山理科大・理²・愛知学院大・歯³
- * P-46 アブラコウモリ (*Pipistrellus abramus*) 出産・哺育コロニー内の平均血縁度は高いか？
○ 安藤陽子¹・須田知樹²・田村常雄³・佐藤俊幸⁴
東京農工大院・連農・野生動物保護¹・立正大・地球環境科学・森林生態²・コウモリの会³・東京農工大・農・動物行動⁴
- * P-47 ツキノワグマにおける性特異的な分散パターン
○ 奥村友梨¹・山本俊昭¹・岡輝樹²
日獣大大学院¹・森林総研²
- * P-48 岩手県北上山地におけるツキノワグマ個体の行動圏の年次比較
○ 高橋広和¹・原科幸爾²・青井俊樹²
岩手大学連合農学研究科¹・岩手大学農学部²
- * P-49 ツキノワグマはどのくらいの距離を種子散布しているか？
○ 小池伸介¹・正木隆²・根本唯¹・小坂井千夏¹・中島亜美¹・山崎晃司³・梶光一¹・葛西真輔⁴
東京農工大¹・森林総研²・茨城県自然博³・知床財団⁴

- P-50 四国剣山山系におけるツキノワグマの越冬穴
○金澤文吾¹・山崎浩司¹・伊藤 徹²・草刈秀紀³
四国自然史科学研究センター¹・高知大学理学部²・WWF ジャパン³
- * P-51 岐阜県大野郡白川村周辺におけるニホンツキノワグマの食性
○加藤 真¹・杉浦里奈¹・阿部晃久¹・加藤良太¹・林 康利¹・加藤春喜²・新妻靖章¹
名城大¹・トヨタ白川郷自然学校²
- P-52 兵庫県におけるツキノワグマの成長とその特徴
○中村幸子¹・横山真弓¹・森光由樹¹・片山敦司²・斎田栄里奈³
兵庫県立大学/兵庫県森林動物研究センター¹・(株)野生動物保護管理事務所²・兵庫県森林動物研究センター³
- * P-53 ツキノワグマは食物不足の秋をどう乗り切るのか？
○小坂井千夏¹・山崎晃司²・根本 唯¹・中島亜美¹・小池伸介¹・梶 光一¹
東京農工大学¹・茨城県自然博物館²
- * P-54 農業被害を起こしたツキノワグマの特定手法の確立とその野外応用
○齊藤正恵¹・山内貴義²・青井俊樹³・梶 光一¹
東京農工大学¹・岩手県環境保健研究センター²・岩手大学³
- P-55 岩手大学御明神演習林における4カ年のヘア・トラップ調査
○山内貴義¹・近藤麻実²・鞍懸重和¹・齊藤正恵³
岩手県環境保健研究センター¹・岐阜大学大学院連合獣医学研究科²・東京農工大学農学部³
- P-56 北海道渡島半島地域におけるヘア・トラップ法を用いたヒグマ個体数推定の試み 2
—亀田半島における試行—
○釣賀一二三¹・山村光司²・富沢昌章³
北海道環境研¹・農環研²・北海道日高支庁³
- P-57 奄美大島のマングース未侵入区域の脊椎動物相～油井岳天然林における3年間の自動撮影記録～
○石田 健¹・倉石 武²・服部正策²
東京大学大学院農学生命科学研究科¹・医科学研究所²
- P-58 中国中央部に同所的に生息するアナグマ2種 (*Arctonyx collaris*, *Melogale moschata*) 間の巢穴資源分割
Liang Zhang¹・You-Bing Zhou²・Chris Newman³・○金子弥生⁴・David W. Macdonald³・
Ping-Ping Jiang¹・Ping Ding¹
Zhejiang University¹・Chinese Academy of Sciences²・University of Oxford³・東京農工大学⁴
- * P-59 分布中心部と周縁部におけるヒグマの痕跡密度と食性の比較
○佐藤喜和¹・小林喬子²・西山幸之介¹・中村秀次¹・伊藤哲治¹・浦田 剛³
日大・生物資源・森林動物¹・東京農工大・院・連合農²・浦幌ヒグマ調査会³

- * P-60 岐阜県白川村のツキノワグマにおける秋期の行動圏の個体差
○杉浦里奈¹・加藤 真¹・阿部晃久¹・浅野 玄²・加藤春喜³・橋本啓史¹・新妻靖章¹
名城大¹・農¹・岐阜大²・応用生物²・NPO 法人白川郷自然共生フォーラム³
- P-61 暖帯林に生息する若齢のメスのツキノワグマの行動圏の6年間の変化
西 信介¹・○平田滋樹²・山本福壽³
元鳥取県林業試験場¹・鳥取県庁生産振興課²・鳥取大学農学部³
- * P-62 モンゴル国フスタイ国立公園におけるアカシカの生息地選択と植生への影響
○幸田良介¹・Sumiya Amartuvshin²・藤田 昇¹
京大生態研¹・Institute of Geocology, MAS²
- P-63 ニホンジカの糞塊消失速度
堀野真一
森林総研東北
- * P-64 奥日光におけるニホンジカの出産時期と出産場所の推定
○岩本千鶴¹・松田奈穂子²・丸山哲也³・小金澤正昭⁴
宇都宮大¹・農¹・野生鳥獣¹・栃木県²・県民の森²・栃木県³・環境森林部³・宇都宮大⁴・農⁴・演習林⁴
- * P-65 餌付カメラトラップ法によるニホンジカの採食行動パターン
○本多響子¹・山根正伸²・山田雄作¹・姜 兆文¹
株野生動物保護管理事務所¹・神奈川県自然環境保全センター²
- P-66 2種類の電気柵を用いた牧草地へのニホンジカ侵入防除
○塚田英晴¹・石川圭介¹・竹内正彦²・福江佑子³・南 正人^{3,4}・中村義男⁵・花房泰子⁵・
深澤 充¹・清水矩宏⁶
畜産草地研究所¹・中央農業総合研究センター²・ワイルドライフコミュニティ研究所³・
麻布大学⁴・動物衛生研究所⁵・神津牧場⁶
- P-67 人為的活動がニホンジカの分布と生息密度に与える影響
○鈴木 透¹・山根正伸²・笹川裕史³
酪農学園大学¹・神奈川県自然環境保全センター²・国立環境研究所³
- * P-68 洞爺湖中島における人慣れエゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) 個体の日周行動の観察
○土屋誠一郎¹・吉田剛司¹・伊吾田宏正¹・松浦有紀子²・高橋裕史³・梶 光一⁴
酪農大¹・北大²・森林総研³・東農工大⁴
- P-69 エゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) の出産場所選択
○松浦友紀子¹・伊吾田宏正²
北海道大学 FSC¹・酪農学園大学²

- * P-70 エゾシカの個体数増加とヒグマによるエゾシカ新生子の捕食
○小林喬子¹・佐藤喜和²
東京農工大・院・連合農¹・日大・生物資源・森林動物²
- * P-71 エゾシカの交通事故地点の分布における季節変化とその特徴について
○野呂美紗子^{1,2}・鹿野たか嶺¹・原文宏¹・萩原 亨²
北海道開発技術センター¹・北海道大学²
- * P-72 エゾシカの忌避する周波数に関する実験
○鹿野たか嶺¹・野呂美紗子¹・山川 晃²・吉田啓志³
(社)北海道開発技術センター¹・北海道職業能力開発大学校²・道新文化センター³
- P-73 飼育下におけるニホンカモシカの採食量の季節変化
○山田雄作¹・村田浩一²
(株)野生動物保護管理事務所¹・日大²
- P-74 イノシシの2種類の寒地型牧草への嗜好性
○上田弘則・井上雅央・江口祐輔
近畿中国四国農業研究センター
- P-75 栃木県の里山におけるイノシシによる農作物被害と被害リスクの予測に関する研究
○高橋俊守¹・野元加奈²・小金澤正昭³
宇大里山セ¹・宇大院農²・宇大演習林³
- * P-76 栃木県茂木町におけるイノシシ被害地点の土地利用と環境特性
○野元加奈¹・高橋俊守²・小金澤正昭³・福村一成⁴
宇大院農¹・宇大里山セ²・宇大演習林³・宇大農⁴
- P-77 衛星テレメトリーによるチルー (*Pantholops hodgsoni*) の季節的移動の把握
○吉田剛司¹・星野仏法¹・S. Ganzorig¹・伊吾田宏正¹・金子正美¹・梶 光一²・姜 兆文³・呉 曉民⁴
酪農学園大¹・東農工大²・WMO³・西北瀕危動物研究所⁴
- P-78 梅花鹿と朱印船貿易、当時の我が国のシカの生息状況について
○赤坂 猛¹・伊吾田宏正¹・久井貴世²・阿部綾子¹
酪農学園大学生命環境学科¹・北海道大学大学院文学研究科²
- P-79 イノシシにおける甘味と味覚に対する反応
○江口祐輔¹・栗城 綾²・井上雅央¹・上田弘則¹・植竹勝治²・田中智夫²
近中四農研¹・麻布大²
- P-80 モンゴルの鉄道と国境による大型野生草食獣の生息地分断化の検証
○伊藤健彦¹・B. Lhagvasuren²・B. Buuveibaatar²・B. Chimeddorj³・高槻成紀⁴・恒川篤史¹
鳥取大¹・モンゴル科学アカデミー²・WWF モンゴル³・麻布大⁴

- * P-81 長野県秋山地域における中大型哺乳類の分布
辻野 亮
総合地球環境学研究所
- * P-82 冷温帯スギ人工林におけるニホンザルの冬期餌資源の定量評価
○坂牧はるか¹・江成広斗²・青井俊樹³
岩手大院 連合農学¹・京大霊長研²・岩手大 農³
- * P-83 ニホンザルがヤマグワの生育密度・樹形に及ぼす影響
○江成広斗¹・坂牧はるか²
京大霊長研¹・岩大院連合農学²
- * P-84 名古屋市東山動物園のキンシコウ (*Rhinopithecus roxellana*) 新生仔における行動発達
○横山卓志¹・楠田哲士²・曾根啓子¹・保尊 脩¹・森部絢嗣¹・高橋秀明³・小林弘志³・織田銑一¹
名大・院・生命農学¹・岐阜大・応用生物科学²・名古屋市東山動物園³
- P-85 高人工林率地域におけるニホンザルの生息地改善のための植生管理
千々岩 哲¹・西邨顕達²
株式会社ラーゴ¹・同志社大学²
- * P-86 冬期に北海道へ来遊するゴマフアザラシの食性解析
○渡辺なつ樹¹・小林万里²
農工大¹・東農大²
- * P-87 ツシマヤマネコの行動圏決定とその維持機構における尾根部の役割
○寺西あゆみ¹・伊澤雅子¹・土肥昭夫²・荒木大輔¹
琉球大・理¹・福岡市在住²
- * P-88 人為的な環境改変によるツシマヤマネコの環境選好性の変化
○荒木大輔・寺西あゆみ・伊澤雅子
琉球大・理
- P-89 Artificial disturbance by the land development activity on the home range of the female Tsushima leopard cat, *Prionailurus bengalensis euptilurus*, on Tsushima Islands, Japan
○Dae-hyun Oh, Shusaku Moteki, Masako Izawa
Laboratory of Ecology and Systematics, Faculty of Science, University of the Ryukyus
- * P-90 主にハクビシンを対象としたサクランボ食害防護柵の開発
○遠藤由美¹・竹内正彦²・古谷益朗³・安藤元一⁴・安江 健¹・松澤安夫¹
茨城大・院・農・応用動物行動学研究室¹・中央農研・鳥獣害²・埼玉県農林総合研究センター茶業特産研究所³・東農大・農・野生動物学研究室⁴

- P-92 長野県におけるアメリカミンクの分布拡大と個体群構造
○福江佑子¹・葦田恵美子¹・佐藤美幸¹・岸元良輔²
ワイルドライフコミュニティ研究所¹・長野県環境保全研究所²
- * P-93 釧路湿原に生息するアメリカミンクとクロテンの食性
○竹下 毅¹・立澤史郎¹・池田 透¹・嶋谷ゆかり²・増田隆一²
北海道大学大学院文学研究科地域システム講座¹・北海道大学大学院理学院²
- P-94 キタキツネ (*Vulpes vulpes schrencki*) の餌選択
○近藤 慧・白木彩子
東農大 生産
- P-95 名古屋市において捕獲されたアライグマの齢と食性及び生息状況
○川畑亜瑠真¹・藤谷武史²・曾根啓子¹・保尊 脩¹・森部絢嗣¹・織田銃一¹
名古屋大院生命農学¹・名古屋市東山動物園²
- P-96 知床半島における外来アライグマの現状と対策課題
○池田 透・島田健一郎
北大
- P-97 自然環境に配慮した道づくりにおけるタヌキ (*Nyctereutes procyonoides*) の保全の試み
○長谷川明子^{1,2}・織田銃一¹・田中智夫²
名古屋大学・院・生命農学¹・麻布大学²
- P-98 知床半島のヒグマ高密度地域におけるエゾシカ新生児の減少とヒグマによる捕食の影響について
○山中正実¹・小林喬子²
知床財団¹・東京農工大学²
- P-99 知床半島周辺におけるイタチ科の長期モニタリング方法の改善
○村上隆広¹・中川 元¹・山中正実²・岡田秀明³・増田 泰²
知床博物館¹・知床財団²・斜里町自然保護係³
- P-100 日本海側に来遊するゴマフアザラシの移動生態
○小林万里^{1,5}・河野康雄²・伊東 幸³・加藤美緒¹・木内政寛¹・渋谷未央¹・藤本泰裕⁴・
加藤菊緒⁵
東京農業大学・生物産業¹・焼尻・フリー調査員²・抜海・フリー調査員³・北海道大学・獣医学部⁴・NPO 法人北の海の動物センター⁵
- * P-101 低標高域においてエゾナキウサギの生息を可能にする条件
○家入明日美・佐藤周平・柳川 久
帯畜大・野生動物管理

- * P-102 低標高域（標高 70m）に生息するエゾナキウサギの地上活動
○佐藤周平・柳川 久
帯畜大・野生動物管理
- * P-103 樹洞下の糞によるエゾモモンガ営巣樹洞の検知
○鈴木 圭¹・森さやか²・林恵理子²・柳川 久¹
帯畜大 野生動物管理¹・東大 農 生物多様性²
- * P-104 トドマツ優占天然混交林におけるエゾモモンガの個体数推定
○鈴木愛未¹・加藤アミ^{1,2}・井口和信³・岡平卓巳³・松井理生³・押田龍夫¹・林 良博⁴
帯畜大 野生動物管理¹・(財)キープ協会環境事業部²・東大 北海道演習林³・東大 農学生命科学⁴
- * P-105 エゾモモンガにおける集団営巣（予報）
○浅利裕伸¹・柳川 久²
(株)長大¹・帯畜大²
- * P-106 滋賀県におけるハタネズミの生息環境特性解析
○松浦宜弘¹・高柳 敦¹・柴田昌三²
京大院農¹・京大フィールド研²
- P-108 ニホンヤマネの夏のホームレンジ
○饗場葉留果^{1,2}・岩渕真奈美^{1,2}・湊 秋作^{1,2}
キープやまねミュージアム¹・ニホンヤマネ保護研究グループ²
- P-109 ニホンヤマネの冬眠及び休眠場所選択条件の解明
○中村夢奈¹・小城伸晃¹・玉手英利²
山形大学理工学研究科¹・山形大学理学部²
- * P-110 ニホンヤマネの冬眠場所
○岩渕真奈美^{1,2}・饗場葉留果¹・森田哲夫²・湊 秋作¹
キープやまねミュージアム¹・宮崎大院 農工²
- * P-111 異なる土壤環境が3種のトガリネズミ類の分布に与える影響
○野島雄一郎¹・筒木 潔²・押田龍夫¹
帯畜大・野生動物管理¹・帯畜大・環境土壌²
- P-112 コモンテンレック、及びハリテンレックの授乳期における行動パターン
伊藤 亮
京大 理 動物行動
- * P-113 コウベモグラの地中利用様式の季節変化
○檜村 敦¹・茂木邦人²・篠原明男³・土屋公幸⁴・高橋俊浩⁵・森田哲夫⁵
宮崎大院 農工¹・宮崎大院 農²・宮崎大 フロンティア科学³・(株)応用生物⁴・宮崎大 農⁵

- * P-114 森林内におけるニホンウサギコウモリの夏季ねぐら（Day roost）の特徴
○吉倉智子¹・渡邊眞澄²・上條隆志¹・安井さち子³
筑波大学大学院生命環境科学¹・東京農工大農²・つくば市並木³
- * P-115 沖縄島で見られるオリオオコウモリの個体数の増加について
○中本 敦¹・佐藤亜希子¹・金城和三²・伊澤雅子¹
琉球大・理¹・冲国大・法²
- * P-116 森林の物理的空間構造が食虫性コウモリ類の活動におよぼす影響
○福井 大^{1,2}・平川浩文¹・D. A. Hill³
森林総研北海道¹・学振PD²・英Sussex大³
- * P-117 オスによるコウモリダンゴを利用したメスの囲い込み
○杉田典正¹・上田恵介²
立教大院¹・立教大²
- * P-118 広島県臥龍山産モリアブラコウモリ（*Pipistrellus endoi* Imaizumii）の成長と音声の発達
○河田祐樹¹・石田麻里²・松村澄子¹
山口大院理工学¹・山口大院理工学：秋吉台科博²
- P-120 北海道知床半島のコウモリ相
○近藤憲久¹・佐々木尚子²・須貝昌太郎³
根室市歴史と自然の資料館¹・群馬県自然史博物館²・東京農大³
- * P-121 岡山県の小型哺乳類相
○横山貴史¹・小林秀司²・矢吹 章³
岡山理大院・総情¹・岡山理大・理²・岡山ツキノワ研³
- * P-122 北海道東部の高速道路における動物用道路横断構造物の小型哺乳類による利用
○小野香苗・柳川 久
帯畜大・野生動物管理
- P-123 巣箱は誰のもの？自動撮影カメラによる樹上性哺乳類の調査
安田雅俊
森林総研九州支所
- * P-124 センサーカメラの機種間性能比較
○安藤元一・鳥海沙織・椎野 綾・小川 博・天野 卓
東農大
- * P-125 房総半島における哺乳類の捕食が在来淡水性カメ類に及ぼす影響
○小林頼太¹・小菅康弘²・森田悦朗²・篠原栄里子³
東大院農¹・NPO 法人カメネットワークジャパン²・千葉県自然保護課³

- * P-126 簡易な結実量推定方法の開発 ～食物資源量をはかる～
○中島亜美¹・正木 隆²・小池伸介³・山崎晃司⁴・梶 光一³
東京農工大学大学院・農¹・森林総研²・東京農工大学³・茨城県博⁴
- * P-127 縄文・弥生時代の狩猟域—ストロンチウム同位体分析を通して—
○石丸恵利子・申 基澈・寺村裕史・辻野 亮・中野孝教・湯本貴和
総合地球環境学研究所
- * P-128 P-aminopropiophenone とプリンペランを併用したジャワマングース駆除方法の開発
○平野昂規¹・小倉 剛²・中田勝士¹・石橋 治²・砂川勝徳²
琉球大学大学院農学研究科生産環境学専攻亜熱帯動物学講座¹・琉球大学農学部生産環境学科
亜熱帯動物学講座²
- P-129 ハクビシンは周年繁殖が可能か？—埼玉県における捕獲個体による調査—
○豊田英人¹・江口祐輔²・古谷益朗³・植竹勝治¹・田中智夫¹
麻布大院獣医¹・近中四農研²・埼玉県農林総研セ³
- P-130 東北地方で捕獲されたニホンヤマネ—飼育下における冬眠期の行動観察—
○小城伸晃¹・中村夢奈¹・武浪秀子²
山形大学理工学研究科¹・大井沢自然博物館²
- * P-131 DNA バーコーディングを目標としたウシ科の CO1 遺伝子に関する予備的研究
○川田伸一郎・栗原 望
国立科学博物館動物研究部
- * P-133 歯の形態に基づく紀伊半島及び四国産ニホンツキノワグマの地理的位置づけ
上堀智司
広島加計学園英数学館高等学校
- P-134 大学と自治体の連携による野生鳥獣管理技術者養成プログラムの構築
○小金澤正昭¹・高橋俊守²・丸山哲也³
宇都宮大学演習林¹・宇都宮大学里山科学センター²・栃木県環境森林部³
- * P-135 熊本県で発見されたクリハラリス *Callosciurus erythraeus* 集団の移入起源の解明 (予報)
○池田 瞳¹・坂梨仁彦²・安田雅俊³・押田龍夫¹
帯畜大・野生動物管理¹・熊本県文化企画課²・森林総研九州支所³
- * P-136 熊本県に生息するニホンジカの系統解析
○柴田圭輔¹・小泉 透²・細井栄嗣¹
山口大学農学研究科¹・森林総合研究所²
- * P-137 宮島のニホンジカ餌づけ個体群に及ぼす給餌禁止政策の影響
○野田汐莉・細井栄嗣
山口大学農学研究科

- * P-138 山口県西部におけるニホンイノシシの食性及び栄養状態の季節的变化
○佐藤東紀¹・潮田 篤²・細井栄嗣¹・田戸裕之³
山口大学農学研究科¹・山口大学教育学研究科²・山口農林総セ³
- P-139 ニホンジカの空間利用と森林の下層植生密度との関係
○森 一生¹・武知宏弥²・鎌田磨人³
徳島県¹・徳島大学大学院²・徳島大学³
- P-140 ニホンジカの染色体地理的変異と染色体進化
○原田正史¹・安藤彰朗²・鳥居春己³・立澤史郎⁴・伊吾田宏正⁵・細井栄嗣⁶・金森弘樹⁷・池田浩一⁸・川井裕史⁹・末次加代子¹⁰
大阪市大¹・島根県立大²・奈良教育大³・北大⁴・酪農学園大⁵・山口大⁶・島根中山間センター⁷・福岡県森林センター⁸・大阪府みどり総合センター⁹・神奈川県自然環境保全センター¹⁰
- * P-141 ニホンイタチとシベリアイタチの後肢帯に見られる形態学的差異とその進化的含意
○森 健人¹・鈴木 聡²・小薮大輔¹・木村順平³・遠藤秀紀⁴
東大院理¹・京大院理動物²・ソウル大獣医解剖³・東大博物館⁴
- * P-142 The assessment of the road use of the Iriomote cat (*Prionailurus bengalensis iriomotensis*) by the distribution of scats and prey animals on Iriomote-jima Island
○Juan Jose Diaz-Sacco, Masako Izawa
Graduate School of Engineering and Science, University of the Ryukyus